



給食の



もったいない大作戦 東京3Rプロジェクト

八王子市では、来る東京2020に向けて「オリンピック・パラリンピック教育」を行っています。東京都のオリンピック・パラリンピック教育における4つのテーマの一つである「環境」について、各学校がこれまで実践してきた取組を一層充実・発展させるため、給食における取組として「スクールアクション『もったいない』大作戦 ～東京3Rプロジェクト～」を全校で実施しました。

この取組は、10月16日「世界食料デー」に合わせ、10月15日から19日までを「もったいない大作戦ウィーク」とし、日々の給食、食生活における食べ物への感謝の気持ち、食べ方、食べ残しを見直し、好き嫌いせず残さず食べるように意識させることを目標にしています。

Reduce



のこ^り残さず^た食べて
ごみを減らします。

Recycle



さいせいしげん^{かつよう}
再生資源の活用に
きょうりやく
協力します。

Reuse



さいしやう^{さいりやう}
再使用・再利用できるもの
だいじ^{つか}
を大事に使います。

各学校の 取り組み紹介

クラスごとに、いろいろなアイデアを出し合い、取り組みました。中には、給食川柳をつくるクラスもありました。

もったいない大作戦の掲示を見た子どもたちに、「食べ物をつくるために、こんなに水を使うの？」「昨日は、どのくらい残っちゃったの？」と聞かれました。食べ残しが多かった6月の平均と比べると、この取組中の残菜は半分に減りました。

クラスごとの行動目標をたてたので、一人一人の意識が高まり全体の残菜を減らすことができました。終了後は、振り返りをしてもらい、実施できたクラスから表彰状を掲示してもらいました。

給食委員会が、「苦手な食べ物を克服する方法」をインタビューし、たくさんの克服方法が紹介されました。道徳の時間には、給食室の午後の様子を映像で見て、給食を調理した調理員さんが、食べ残しを自ら捨てているところや、捨てられる食べ残しの量を見て、子どもたちは大変驚いていました。

取り組みの前半の主食残菜率は13.8%、後半になると、みんなの「もったいない意識」が目覚め、最終日の主食残菜率は、2.7%にまで減りました。

飢餓の話や食品ロスの話は、低学年には難しいようでしたが、世界には一分間に17人の人が飢餓で亡くなっていることを伝えると、驚きと沈黙が起きました。ひとりひとりの小さな努力が大きな成果を生むので、「もったいない」の気持ちを忘れないでほしいと伝えました。

校長先生からのメッセージを子どもたちに伝えました。「人それぞれに体の大きさも食欲も異なります。けれども、私たちは、地球の命をいただいて生きています。全てを無駄なく、感謝して食べたいものです。クラスで協力しあって、残さず食べてくださいね。」

しょくいこメモは、目蓋さんが跳んだり、教室にはったりしてね

10月15日のしょくいこメモ

10月15日
～19日 もったいない大作戦ウィーク
～食べ物の大切さ、環境について考えてみよう～

残さず食べるために心がけてほしいこと

<p>給食の準備を早くしましょう みんなで協力</p> 	<p>サンプルケースを見ましょう。 じぶんの食べる量を確認</p> 
---	---

<p>苦手な食べ物にも挑戦しましょう</p> 	<p>ごちそうさまの前に「もうひと口食べましょう」</p> 
--	---

もったいないを合言葉に！
全部食べると環境にやさしい
ごみを減らして地球を守りましょう



取り組みの成果

取組み終了後は、全校で、取組の前後で残菜量に変化があったかを検証し、教育長から各クラスに表彰状が贈られました。

残菜が多い6月の全小学校の平均残菜率は7.9%、もったいない大作戦ウィーク(10/15～10/19)の平均残菜率は5%でした。約3%の残菜が削減できました。食品の量にすると、約3tです。

これからも、各校で「もったいない」の日を決め、毎月取り組んでいきます。